

平成31年度個別事業の紹介について

本市においては、平成27年国勢調査における人口が5万人を下回るなど、若者の流出をはじめとした人口減少及び少子高齢化が急激に進行しています。また、これに伴って、地域全体の活力が低下していくことが懸念されることから、地域活力の維持・創出に向けて、行政だけではなく市民や関係団体などが手を取り合って様々な対策を実施していく必要があります。

このことから、平成31年度予算は旧市民病院跡地での文化施設を核とした新文化交流施設の整備、旧朝日丘小学校跡地での認定こども園の整備、漁業文化交流センターのリニューアル整備、新交通システム構築に向けた実証実験の実施など「氷見まちなかランドデザイン」に基づくまちづくりに本格的に着手するとともに、現西部中学校校舎を活用した小中一貫校の整備、中心市街地エリアの価値向上と地域経済の活性化を目指すビジネスサポートセンターの設置やエリアマネージャーの配置、広域観光・インバウンドを視野に入れた滞在型観光の推進、名城大学農学部との連携強化などの「氷見元気プロジェクト」に掲げる事業へ重点的に予算を配分し、第8次氷見市総合計画が目指す「人 自然 食を未来につなぐ交流都市ひみ」の実現に向け、総合的な事業展開を強力に推進するための予算となっています。

次ページからは、平成31年度において取り組む事業について、第8次氷見市総合計画に定める4つの基本目標とその基本目標に基づく16の政策ごとに説明しておりますので、個別の事業がどのような未来につながっていくのかをイメージしながら読み進めていただけたら幸いです。

第8次総合計画 基本目標及び政策

I 暮らしづくり

- 1 安全で安心につつまれた生活の確保
- 2 健やかで心安らかな暮らしの充実
- 3 利便性の高い生活基盤の整備
- 4 自然と調和した生活空間の創造

II 人づくり

- 1 親子の笑顔がきらめく環境の整備
- 2 「生きる力」をはぐくむ教育の充実
- 3 学びによる豊かな人生の創造
- 4 地域を支える市民活動の活性化

III 元気づくり

- 1 氷見の食・ブランドの確立
- 2 地域特性を生かした産業の振興
- 3 競争力の高い魅力ある観光都市の形成
- 4 将来に夢が持てる雇用の創出
- 5 多様で活発な交流の促進

IV 持続可能な自治体経営の確

- 1 誰もが主役のまちづくりの推進
- 2 スリムでわかりやすい行政の実現
- 3 周辺団体や国・県等との連携強化

個別事業の紹介の見方

①新規・拡充・継続の別

新規:平成31年度に新たに取り組む事業です。
 拡充:平成30年度継続事業のうち、内容を拡充した事業です。
 継続:平成30年度に引き続き実施する事業です。

②事業費

この事業に必要な費用の合計を記載しています。

③事業の担当課及び電話番号

この事業を行う課名及び電話番号です。

継続 防災力向上事業費

2,133万円

(前年度)

2,277万円

担当課 地域防災課

電話番号 74-8021

1. 本市の現状と課題

全国で発生する大規模な災害における対応は、被災した自治体の教訓から、行政での対応には限界があり、広域な受援体制のほか、「自らの命・地域は自ら守る」自助・共助の重要性が増しており、地域・個人ごとの防災力の向上が求められています。

2. 平成31年度事業の内容

市の各地域にある指定避難所に備蓄倉庫を設置し、市の備蓄関係機関・地域との連携の強化及び防災士の資格取得助成による防災リーダーの育成等により、市民・各地区の防災力の向上を図ります。

④事業の内容

この事業の目的や、具体的に何を行うか、どのような効果が期待されるのかを記載しています。

3. 目標値または実施により求める効果

- (1) 備蓄倉庫を分散配置(7か所予定)します。小学校:朝日丘、窪、十二町、速川、明和 中学校:北部、西條
- (2) 市の総合防災訓練、地区防災訓練、原子力防災訓練等を実施します。
- (3) 防災士の育成目標:25人

(単位:万円)

財源	市債	410	経費内訳	消耗品費	500
	その他	394		補助及び交付金	430
	市の負担	1,329		その他	1,203



防災ワークショップの様子

⑤財源

この事業を実施するために必要なお金がどこから来ているかを記載しています。

国の負担	国庫補助金など国から来るお金
県の負担	県補助金など県から来るお金
市債	事業を実施するため、金融機関や国から借りるお金
その他	事業を実施することにより、利益を受ける方からいただく負担金や施設の使用料、寄附金など
市の負担	市のお金(一般財源)

⑥経費内訳

財源が、主にどのような費目として支出されているかを記載しています。

